



## 2022年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年10月7日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9414 URL https://www.bs11.jp  
 代表者(役職名)代表取締役社長 社長執行役員 (氏名)近藤 和行  
 問合せ先責任者(役職名)取締役 常務執行役員 (氏名)平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900  
 定時株主総会開催予定日 2022年11月16日 配当支払開始予定日 2022年11月17日  
 有価証券報告書提出予定日 2022年11月17日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年8月期の連結業績(2021年9月1日~2022年8月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期	12,250	2.0	2,394	△10.3	2,395	△12.6	1,599	△14.3
2021年8月期	12,004	5.4	2,669	21.9	2,741	24.9	1,866	25.2

(注) 包括利益 2022年8月期 1,599百万円(△14.3%) 2021年8月期 1,866百万円(25.2%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年8月期	89.84	89.74	7.6	10.1	19.5
2021年8月期	104.83	104.76	9.5	12.4	22.2

(参考) 持分法投資損益 2022年8月期 -百万円 2021年8月期 -百万円

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年8月期	24,241	21,569	88.9	1,210.12
2021年8月期	22,972	20,316	88.4	1,140.28

(参考) 自己資本 2022年8月期 21,544百万円 2021年8月期 20,301百万円

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年8月期	1,843	△50	△356	14,456
2021年8月期	2,199	△217	△359	13,021

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00	356	19.1	1.8
2022年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00	356	22.3	1.7
2023年8月期(予想)	—	0.00	—	26.00	26.00		36.9	

## 3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,145	0.8	978	△27.5	978	△27.5	672	△25.9	37.74
通期	12,500	2.0	1,810	△24.4	1,810	△24.4	1,255	△21.5	70.49

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無  
新規 — 社（社名） — 、除外 — 社（社名） —

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2022年8月期	17,804,032株	2021年8月期	17,804,032株
2022年8月期	137株	2021年8月期	137株
2022年8月期	17,803,895株	2021年8月期	17,803,895株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	4
(4) 今後の見通し .....	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	5
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 連結貸借対照表 .....	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	8
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(会計方針の変更) .....	12
(表示方法の変更) .....	12
(追加情報) .....	13
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	13

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「新型コロナウイルス」といいます。）の感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって持ち直しの動きが見られる状況となりました。一方で、世界的な金融引き締め等を背景とした海外景気の下振れや物価上昇等による影響に十分注意する必要があります。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の77.1%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しております。衛星放送メディア関連の広告費は、1,209億円（前年比103.1%）となり、そのうち70%強は当社を含むBSデジタル放送事業が占めております。

（「2021年 日本の広告費」(株)電通調べ）

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで 人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、「コンテンツの強化と配信ビジネスの拡大」をテーマとして自社制作コンテンツの強化、良質なコンテンツへの出資、配信ビジネス等の新規事業開発に取り組むとともに、効果的な広告宣伝、広報施策を実施いたしました。

当連結会計年度では、新型コロナウイルス感染拡大の長期化に伴い、WEB会議等を活用したリモート収録や視聴者参加型のオンラインイベントの実施等、デジタル技術の積極的な活用により、視聴者需要の充足に邁進してまいりました。

#### [レギュラー番組]

2021年10月の番組改編では、3番組のレギュラー放送を開始いたしました。歴史教養番組『偉人・素顔の履歴書』は放送開始直後からテレビ放送、配信ともに多くの視聴者にご覧いただき、YouTube限定コンテンツの『偉人・こぼれ壺』も配信いたしました。このほか、ローカル鉄道沿線地域の振興を目的に始まった「鉄印」を集める紀行番組『私たち鉄印帳はじめます。』、(株)京都放送、東京メトロポリタンテレビジョン(株)との3社共同制作番組『京都画報』もご好評をいただきました。更に1月には、製作委員会参加の『ラランド「有象無象SHOW」』の放送・配信を行い、7月には、2.5次元俳優の植田圭輔さんと鳥越裕貴さんが繰り広げるトークバラエティ『植田鳥越 口は〇〇のもとTV』を放送開始するなど、コンテンツの拡充に努めました。

報道番組では、『報道ライブ インサイドOUT』を大幅にリニューアルいたしました。2021年10月から『報道ライブ インサイドOUT』の新サブキャスターを、4月からは金曜日に新キャスターをそれぞれ迎えました。また、鮮やかな緑色の番組セットとタイトルロゴに変更するとともに『速報ニュース インサイドOUT』との連動を深め、『報道ライブ インサイドOUT 鈴木哲夫の永田町ショータイム』を4月より放送開始する等、内容のより一層の強化に努めました。

そのほか、放送100回を超えた紀行・教養番組『京都浪漫 悠久の物語』や、「東京モーターサイクルショー」でトークステージを行いライブ配信も実施した『大人のバイク時間MOTORISE』、豪華ゲストを迎えコンサート形式でお届けする『八代亜紀いい歌いい話』等も引き続き、内容をより一層充実させて放送いたしました。

『ディスカバリー傑作選』では、『名車再生!』、『解明・宇宙の仕組み』等、様々なジャンルのコンテンツを厳選し放送しているほか、ドラマジャンルの拡充にも努め、製作委員会参加作品の『パティシエさんとお嬢さん』や『ねこ物件』、人気の高い国内ドラマ『牡丹と薔薇』、日本初放送の中国時代劇『双花伝～運命を分かち姉妹～』、同じくヨーロッパミステリー『RIG45 絶海に潜む闇シーズン2』等を放送いたしました。

#### [特別番組]

経営ビジョンである“豊かで 癒される 教養・娯楽番組”として、初心者から美術ファンまで楽しめる内容でお届けした東京メトロポリタンテレビジョン(株)との共同制作番組『東京藝大で教わる西洋美術の見かた』や、国文学者の中西進さんと奈良を訪ねる東京メトロポリタンテレビジョン(株)、奈良テレビ放送(株)との3社共同制作の紀行・教養番組『万葉びとと令和の物語～中西進とめぐる奈良・世界遺産の旅～』、飛騨高山の魅力とウォーキングのポイントをお届けした『楽しく1万歩!小京都日和』等、BS放送視聴者に人気の、歴史や紀行をテーマとした特別番組を多数放送いたしました。このほか、女性誌発行部数No.1の雑誌「ハルメク」とタイアップして女性たちの心豊かな生き方をご紹介した『につぼん!推し活ライフ～トキメキ熱中女性たち～』、着物で散歩し日本の魅力を再発見する『和モダン時間(タイムス)～着物でニッポンをさんぽしよう!～』等をお届けいたしました。

スポーツ番組では、今年新たに設立された女子ソフトボール「JD. LEAGUE」の開幕戦をお届けしたほか、長崎文化放送(株)との共同制作番組『長崎離島ゴルフ旅 ～五島列島 宇久・小値賀～』を放送いたしました。

更に、毎年恒例の(株)京都放送との共同制作番組『京都紅葉生中継2021～古都を照らす希望の「光」～』、『京都夜桜生中継2022～その名が知られる桜物語～』に加え、『生中継 祇園祭山鉾巡行前祭・後祭2022』等を放送。このほか、過去最多15放送局とのコラボレーションを実現した『桜前線2022 全国キャスターリレー！ ～知っておきたい桜スポット～』、三重テレビ放送(株)との共同制作番組『日本一やかましい祭り 石取祭 ～鉦や太鼓がふたたび鳴り響く、桑名の夏～』等、ローカル局とのコラボレーション施策も積極的に実施いたしました。

#### [アニメ関連事業]

「ANIME+」枠では、製作委員会出資作品である『その着せ替え人形（ビスクドール）は恋をする』、『リコリス・リコイル』等、毎クール40タイトル以上のアニメ関連番組を放送しております。「アニメプラス」枠では『境界戦機』、「キッズアニメ∞(むげんだい)」枠では、『スーパーウィングス ミッションチーム』等を放送。年末年始には、主催の『Animelo Summer Live 2021 powered by Anison Days』をテレビ独占放送する等、人気作品の特別編成を行いました。加えて、エンターテインメント情報番組『アニゲー☆イレブン!』、アニメソング番組『Anison Days』等、幅広い年齢層のファンのニーズにお応えできるよう、様々な切り口でアニメ関連番組を放送いたしました。また、「AnimeJapan2022」や「とちてれ☆アニメフェスタ!2022」等のアニメイベントへの出展や協賛等の幅広い展開も実施いたしました。

このほか、読み聞かせ番組『今日のえほん』は、グループ会社である(株)理論社、(株)国土社の児童書を映像化し放送しており、BS11+、BS11公式YouTubeチャンネルでの配信も行っております。

#### [配信ビジネス等]

当期の重点施策である「配信ビジネス、新規事業開発と収益化」を目的とし、自社制作番組及び関連コンテンツのネット配信の強化、オンラインイベントや関連グッズのネット販売を行いました。

7月には、当社独自の動画配信サイトをリニューアルし、人気番組のアーカイブをはじめ、オリジナルコンテンツやライブ配信等を視聴できる会員登録制視聴サイト「BS11+」をオープン。一部コンテンツの有料配信も開始いたしました。また、BS11公式YouTubeでの広告付き見逃し配信や、Paravi、FOD、U-NEXTでの定額見放題配信も行い、コンテンツの拡充および配信プラットフォームの拡大に努めました。

配信オリジナルコンテンツでは、グループ会社である(株)国土社の児童書を映像化した『わくわく自由研究』や『歌で聴く絵本「ようかいむら」シリーズ』、(株)文化放送のインターネットラジオ「超! A&G+」とのコラボ企画『転生したらスライムだった件～転スラジオ～』や『ラジオでもはたらく魔王さま!!』をBS11+、BS11公式YouTubeで配信いたしました。また、『転生したらスライムだった件～転スラジオ～』は、特別番組『テレビ 転スラジオ BS11出張特番』を放送し、アーカイブの配信も行っております。

更に、番組関連グッズ等が購入できるBS11公式通販サイト「BS11SHOP」を開設。『太田和彦のふらり旅 新・居酒屋百選』より「太田和彦監修酒器」、『Animelo Summer Live 2022 -Sparkle-』より「アニサマ×アニソングッズ コラボグッズ」等を販売し、第1弾の太田和彦監修酒器は初回入荷分が即完売する等、ご好評をいただきました。

このほか新たな試みとして、自社制作番組関連のオンラインイベント「全国の酒蔵応援!居酒屋探訪家 太田和彦さんとおうちで乾杯!」や「報道ライブインサイド OUT Presents ジャーナリスト養成オンライン講座」を開催いたしました。

今後も放送に加え、配信事業等を通してより多くの視聴者ニーズに応えることができるよう、努めてまいります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は 12,250,430千円（前期比 2.0%増加）となりました。営業利益は 2,394,465千円（前期比 10.3%減少）、経常利益は 2,395,357千円（前期比 12.6%減少）、親会社株主に帰属する当期純利益は 1,599,508千円（前期比 14.3%減少）となりました。

## (2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べ 1,268,278千円増加し、24,241,184千円（前連結会計年度末比 5.5%増加）となりました。主な要因は、現金及び預金が 1,435,290千円増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ 15,195千円増加し、2,671,929千円（前連結会計年度末比 0.6%増加）となりました。主な要因は未払法人税等が 257,162千円、返品調整引当金が 60,585千円減少したものの、流動負債のその他に含めて表示している返金負債が 168,422千円、買掛金が125,221千円、賞与引当金が 15,000千円、退職給付に係る負債が 9,898千円、未払費用が 7,099千円、固定負債のその他に含めて表示しているリース債務が 6,097千円増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ 1,253,083千円増加し、21,569,255千円（前連結会計年度末比 6.2%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当 356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する当期純利益 1,599,508千円の計上に伴い 1,243,430千円増加したこと等によるものであります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ 1,435,290千円増加し、当連結会計年度末には 14,456,611千円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、1,843,212千円（前期は 2,199,725千円の獲得）となりました。これは主に、法人税等の支払額 1,044,877千円があったものの、税金等調整前当期純利益 2,395,357千円の計上等によるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、50,960千円（前期は 217,779千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 21,598千円、無形固定資産の取得による支出 18,568千円等によるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、356,961千円（前期は 359,944千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額 356,013千円等によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2021年8月期	2022年8月期
自己資本比率 (%)	88.4	88.9
時価ベースの自己資本比率 (%)	86.7	69.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	22.8	27.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	563.5	475.5

自己資本比率: 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率: 株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率: 有利子負債/キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ: キャッシュ・フロー/利払い

- (注) 1. いずれも連結ベースの財務数値により算定しております。
2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式総数（自己株式を除く）により算出しております。
3. キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の「営業活動によるキャッシュ・フロー」を利用しております。
4. 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。
5. 利払いにつきましては、連結キャッシュ・フロー計算書の「利息の支払額」を使用しております。

#### (4) 今後の見通し

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって持ち直しの動きが見られる状況となりました。一方で、世界的な金融引き締め等を背景とした海外景気の下振れや物価上昇等による影響に十分注意する必要があります。

次期の見通しにつきましては、このような環境下、テレビ広告収入において営業力の強化と良質な番組制作、効果的な広告宣伝により広告媒体としての価値を向上することで、タイム・スポット収入の増加と周辺事業収入の強化を図ってまいります。一方、費用面では、視聴者の皆様に喜んで頂ける魅力的な番組づくりと番組編成を行いながら番組関連費用の効果的な使用とその他の費用の削減に努めることで費用効率を更に高めてまいります。

以上により、2023年8月期の連結業績予想は、売上高125億円（前連結会計年度比2.0%増）、営業利益18億1千万円（同24.4%減）、経常利益18億1千万円（同24.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益12億5千5百万円（同21.5%減）を見込んでおります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、IFRS（国際財務報告基準）適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当連結会計年度 (2022年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,021,321	14,456,611
受取手形及び売掛金	2,065,994	2,074,459
棚卸資産	363,519	430,350
その他	69,312	122,567
流動資産合計	15,520,147	17,083,989
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,369,269	2,266,730
土地	4,034,756	4,034,756
その他（純額）	606,993	404,755
有形固定資産合計	7,011,019	6,706,242
無形固定資産	84,248	84,219
投資その他の資産		
投資有価証券	104,750	104,750
繰延税金資産	189,065	187,308
差入保証金	34,018	31,786
その他	29,655	42,889
投資その他の資産合計	357,490	366,734
固定資産合計	7,452,758	7,157,195
資産合計	22,972,905	24,241,184

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年8月31日)	当連結会計年度 (2022年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	500,329	625,550
短期借入金	500,000	500,000
未払金	421,646	425,576
未払費用	267,556	274,655
未払法人税等	634,721	377,558
賞与引当金	15,000	30,000
返品調整引当金	60,585	—
その他	149,490	315,188
流動負債合計	2,549,329	2,548,529
固定負債		
退職給付に係る負債	89,109	99,007
その他	18,295	24,392
固定負債合計	107,404	123,399
負債合計	2,656,734	2,671,929
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,183,936
資本剰余金	3,517,726	3,517,726
利益剰余金	12,599,839	13,843,269
自己株式	△143	△143
株主資本合計	20,301,358	21,544,789
新株予約権	14,812	24,466
純資産合計	20,316,171	21,569,255
負債純資産合計	22,972,905	24,241,184

## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)	当連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)
売上高	12,004,411	12,250,430
売上原価	5,553,569	5,937,481
売上総利益	6,450,842	6,312,949
販売費及び一般管理費	3,781,177	3,918,483
営業利益	2,669,665	2,394,465
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,213	1,169
その他	75,081	3,669
営業外収益合計	76,295	4,839
営業外費用		
支払利息	3,903	3,876
その他	62	71
営業外費用合計	3,965	3,948
経常利益	2,741,994	2,395,357
税金等調整前当期純利益	2,741,994	2,395,357
法人税、住民税及び事業税	909,954	794,091
法人税等調整額	△34,271	1,757
法人税等合計	875,683	795,848
当期純利益	1,866,311	1,599,508
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,866,311	1,599,508

## 連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)	当連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)
当期純利益	1,866,311	1,599,508
包括利益	1,866,311	1,599,508
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,866,311	1,599,508
非支配株主に係る包括利益	—	—

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本					新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	4,183,936	3,517,726	11,089,605	△143	18,791,125	9,153	18,800,278
当期変動額							
剰余金の配当			△356,077		△356,077		△356,077
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,866,311		1,866,311		1,866,311
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						5,659	5,659
当期変動額合計	—	—	1,510,233	—	1,510,233	5,659	1,515,892
当期末残高	4,183,936	3,517,726	12,599,839	△143	20,301,358	14,812	20,316,171

当連結会計年度(自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本					新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	4,183,936	3,517,726	12,599,839	△143	20,301,358	14,812	20,316,171
当期変動額							
剰余金の配当			△356,077		△356,077		△356,077
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,599,508		1,599,508		1,599,508
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						9,653	9,653
当期変動額合計	—	—	1,243,430	—	1,243,430	9,653	1,253,083
当期末残高	4,183,936	3,517,726	13,843,269	△143	21,544,789	24,466	21,569,255

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)	当連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,741,994	2,395,357
減価償却費	459,852	351,951
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	7,839	△60,585
賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	15,000
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	8,344	9,898
受取利息及び受取配当金	△1,213	△1,169
支払利息	3,903	3,876
売上債権の増減額 (△は増加)	△122,684	△8,464
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,582	△66,831
仕入債務の増減額 (△は減少)	△57,472	125,221
未払金の増減額 (△は減少)	24,577	5,318
未払費用の増減額 (△は減少)	13,131	7,099
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△57,401	△615
その他	△35,927	114,742
小計	2,981,362	2,890,797
利息及び配当金の受取額	1,213	1,169
利息の支払額	△3,903	△3,876
法人税等の支払額	△778,947	△1,044,877
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,199,725	1,843,212
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△326,248	△21,598
無形固定資産の取得による支出	△37,085	△18,568
その他	145,553	△10,793
投資活動によるキャッシュ・フロー	△217,779	△50,960
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△1,900	—
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△2,047	△947
配当金の支払額	△355,996	△356,013
財務活動によるキャッシュ・フロー	△359,944	△356,961
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,622,001	1,435,290
現金及び現金同等物の期首残高	11,399,320	13,021,321
現金及び現金同等物の期末残高	13,021,321	14,456,611

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。これにより、当社グループの書籍等の出版販売について、従来は、返品による損失見込額を返品調整引当金として計上しておりましたが、変動対価に関する定めに従って、返品されると見込まれる製品についての売上高および売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返金負債を流動負債の「その他」および返品資産を流動資産の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当連結会計年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当連結会計年度の損益に与える影響および1株当たり情報に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いにしたがって、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において独立掲記しておりました「営業外収益」の「保険解約返戻金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「保険解約返戻金」69,152千円は、「その他」に組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において独立掲記しておりました「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「保険積立金の解約による収入」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「保険積立金の解約による収入」159,266千円は、「その他」に組み替えております。

## (追加情報)

(会計上の見積りを行う上でのコロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

新型コロナウイルス感染症による影響については、現時点において今後の収束時期等を正確に予測することは困難な状況であります。ワクチンの普及等により緩やかに景気は回復していくことが予測され、今後の業績への影響は軽微であると仮定して、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行っております。

なお、今後の経過によっては実績値に基づく結果が、これらの仮定及び見積りとは異なる可能性があります。

## (セグメント情報等)

(セグメント情報)

当社グループには、BSデジタル放送事業以外の重要なセグメントがないため、セグメント情報の記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)	当連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)
1株当たり純資産額	1,140円28銭	1,210円12銭
1株当たり当期純利益	104円83銭	89円84銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	104円76銭	89円74銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)	当連結会計年度 (自 2021年9月1日 至 2022年8月31日)
(1) 1株当たり当期純利益	104円83銭	89円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,866,311	1,599,508
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,866,311	1,599,508
普通株式の期中平均株式数(株)	17,803,895	17,803,895
(2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益	104円76銭	89円74銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	11,793	20,037
(うち新株予約権(株))	(11,793)	(20,037)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。